

未来を継ぐ灯を



学校長 西島 多枝子

夕暮れ迫るなか、部活動を終えた全日制の生徒と入れ替わるように、「おはよう」と言う声とともに、定時制の生徒がやってきます。教室の電燈が灯った校舎の姿はまさに、夜空に浮かぶ巨船そのものです。我が吹田高校は「吹田市に府立高校の設置を」という地元の熱い願いのもと、昭和25年4月に全日制の課程を設置したのち、昭和27年4月に府立春日丘高等学校定時制の課程吹田分校の移管により定時制の課程を設置し、全定併置校として校地・校舎を共有し、多くの卒業生を送り出してまいりました。その間、時代変化に機敏に対応し、定時制通信制併修制度の導入、土曜開放講座の開講、聴講生制度の導入、始業前授業〔0時限目〕の導入等、特色ある新たな取り組みを進めるとともに、生徒一人ひとりの学習到達度に合わせた学習指導の充実を図ってまいりました。開校当時と比べて、生徒たちの入学への動機も大きく変化してきたなか、地域の皆様からは多大なご支援と励ましをいただきながら、56年間地域の学校として確かな信頼を得てまいりました。

この度、本校定時制の課程は教育改革の一環として平成17年4月に新入生の募集を停止し、本年3月をもってその歴史を閉じることとなりました。第一回卒業生の同窓会長丸岡武氏の俳句『灯を入れて巨船めきたる夜学校』に詠われた定時制の灯は、今後は未来へ継ぐ灯として、同じ吹田高校の学び舎で灯し続けるとともに、定時制の課程の記念碑に刻ませていただき、卒業生の方々と未来へ続く生徒への励ましの言葉とさせていただきたいと存じます。

終わりにになりましたが、大阪府教育委員会、卒業生・保護者の皆様、歴代の校長をはじめとする教職員の方々、ご支援いただいた地域の皆様に対して、心からの敬意と感謝の意を表すとともに、これまで数多くの物心両面のご支援をいただきました丸岡武氏に対し心からお礼申し上げます。



校章の由来

去<sup>リテ</sup>以<sup>ニ</sup>六<sup>ニ</sup>月<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>息<sup>ヲ</sup>者<sup>也</sup>也  
 搏<sup>チテ</sup>扶<sup>ヲ</sup>搖<sup>シ</sup>而<sup>シテ</sup>上<sup>ル</sup>者<sup>也</sup>九<sup>ノ</sup>万<sup>ノ</sup>里<sup>ニ</sup>  
 水<sup>ノ</sup>三<sup>ノ</sup>千<sup>ノ</sup>里<sup>ニ</sup>上<sup>ル</sup>者<sup>也</sup>九<sup>ノ</sup>万<sup>ノ</sup>里<sup>ニ</sup>  
 鵬<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>徒<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>南<sup>ノ</sup>溟<sup>ニ</sup>也



おおとり なんめい うつ  
 鵬の南溟に徒るや  
 (鵬が南の海に移ろうとするとき)  
 水を撃つこと三千里  
 (水は三千里にわたって波たち荒れる)  
 扶搖を搏ちて上る者九万里  
 (鵬はそのとき起る旋風にのり九万里も上へのぼり)  
 去りて六月を以て息ふ者なり  
 (南に飛び去り、六ヶ月の後に休息する)  
 【莊子・逍遙遊篇】

鵬とは、『莊子』逍遙遊篇に書かれている、北海より南海に向う時、天空九万里もの高みへと舞い上がる大鳥である。青年の雄飛発展を象徴する。ペンとは知識欲と平和を念ずる強い情意を象徴する。  
 すなわち、本校の校章は、青年の志・勉勵、平和の希求を象徴している。

定時制の課程 資料集 目次

学校周辺写真・校歌	
校章・校旗	
学校長挨拶	1
同窓会長挨拶	2
教育後援会会長、生徒会会長挨拶	3
吹田高校定時制の課程の沿革	4
在籍者数、入学者数、卒業生数の推移	5
教育課程の変遷	6
教育課程表にはない特色ある教育実践	10
学校協議会からのメッセージと記録	12
昭和27年度～40年度の記録	16
昭和41年度～50年度の記録	20
昭和51年度～63年度の記録	24
平成元年度～10年度の記録	28
平成11年度～19年度の記録	32
部活動の記録	38
歴代クラブの部員数の推移	40
旧職員集合写真	42
現職員集合写真、現職員名簿	43
職員録	44
記念事業実行委員会の委員・開催記録	50